

特産品を市場関係者にPR

豊洲市場でJAふじ伊豆青果物宣伝会開く



当JAは2月4日、東京都の豊洲市場（東京シティ青果）で、JAふじ伊豆青果物宣伝会を開きました。

鈴木道也会長や鈴木正三組合長をはじめ当JA役職員や西浦柑橘（かんきつ）出荷部会の役員が参加。衆議院議員の勝俣孝明農林水産副大臣も応援に駆け付け、特産のイチゴやミカン、トマト、ワサビ、箱根西麓三島野菜など8品目を展示PRし、「西浦みかん寿太郎」を配布するなど、当JA特産の魅力を発信しました。



当JA特産品の展示などで市場関係者にPR

ウェブメディア活用で優秀賞

令和4年度静岡県JA広報コンクール表彰式



令和4年度静岡県JA広報コンクールで、当JAがウェブメディア活用部の優秀賞を受賞しました。2月8日に静岡市で表彰式が行われ、JA静岡中央会の松本早巳専務から梶穀専務に表彰状が手渡されました。

同部門は、ホームページやSNS、動画などのウェブ媒体全般を先進的に活用したJAを表彰。審査員からは「新生JAの期待に応えるべく、メディアとして完成度が非常に高い」と評価されました。



表彰状を受け取る梶専務（右）

サミットで産地構想を検討

わさびサミットとファーマーズサミット開く



当JAは2月14日にわさびサミットを、3月1日にファーマーズサミットを伊豆の国地区本部で開きました。

わさびサミットでは、各地区の生産組織役員や藤沼和明常務をはじめJA役職員ら約30人が出席。産地構想として、苗の安定供給体制構築などを盛り込んだ振興計画や生産・販売面等体制整備などを協議し、最後に部会間の連携や交流を図り、主要産地の維持発展を目指すなど4項目の共同宣言を行いました。



わさびサミットでは伝統栽培を守り生産・販売強化へ意見交換

大規模農機展示会を初開催

8地区合同で開き約1,000人が来場



当JAは1月27日、28日、8地区合同農機展示会を御殿場地区の育苗・種子粉センターで初開催しました。

新技術を搭載した農業機械の提案などを通じて作業の効率化による労働力の軽減を農業所得の向上につなげ、地域農業の振興を目指します。

鈴木正三組合長は「生産資材の高騰が続く、生産者は厳しい局面を迎えている。本展示会を通じて支援したい」とあいさつしました。



初開催を祝いテープカットを行う役職員



F U J I I Z U ふじ伊豆 トピックス T O P I C S

SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS

JAふじ伊豆はSDGs「1～17の目標」につながる取り組みを行っています。
各所に記載のマークはSDGs目標アイコンです

管内生産者が品評会上位入賞

花きや柑橘品評会で多数入賞



1月、2月、花きや柑橘で、関東東海や県の品評会が行われ、管内の生産者の方々が最高位の農林水産大臣賞など多数入賞されました。各品評会の上位入賞者は次の皆さまです。

敬称略、()かっこ内は地区名

■ 第71回関東東海花の展覧会

金賞・農林水産大臣賞

鈴木 顕一（伊豆太陽）

銀賞 吉田 恵太（伊豆太陽）・田村 安雄（伊豆太陽）
持田 忠継（なんすん）・山田 つね子（伊豆太陽）
渡辺 綱男（伊豆太陽）・土田 光夫（伊豆太陽）
渡辺 勇暁（富士）・渡辺 清一（伊豆太陽）

■ 第38回静岡県花の展覧会

金賞1席・農林水産大臣賞

山田 弘志（伊豆太陽）

金賞 遠藤 美行（伊豆の国）・遠藤 邦彦（富士）
正木 令一（伊豆太陽）・渡辺 勇暁（富士）
後藤 利也（伊豆太陽）・蜂屋 早恵子（伊豆の国）
齋藤 成臣（伊豆太陽）



関東東海花の展覧会で出品展示作業をする生産者

■ 第43回静岡県中晩生柑橘品評会

優秀賞 土屋 明浩（伊豆太陽）

一等賞 田村 政一（伊豆太陽）

菊間 富佐夫（あいら伊豆）

■ 第57回静岡県貯蔵ミカン品評会

優等賞 真野 高志（なんすん）

畜産農家支援活動

三島駅で牛乳の無料配布&動画で応援



藤沼常務（左）や畜産課職員らが三島駅で牛乳を無料配布

当JAは畜産支援の一環として、1月12日に伊豆箱根鉄道・三島駅で地元産牛乳の無料配布や牛乳消費を呼びかける動画を作成し公式YouTubeで配信するなど、畜産農家への支援を呼びかけています。

牛乳の無料配布では、藤沼常務や職員が300セットを配布。藤沼常務は「JAや行政だけの支援では難しい。地元産牛乳や食肉の消費で市民の皆さまの協力を得たい」と力を込めました。当JAはこれまでも行政への支援要請や畜産経営診断の提案・補助、特別金利融資、広報誌での牛乳消費呼びかけなどを行い、今後もさまざまな取り組みを展開し支援していきます。

市駅伝の副賞に「う宮米」

スポーツ振興に3キロ・5キロ入りを寄贈



富士宮地区は1月27日、2月12日開催の富士宮駅伝競走大会の副賞として、同地区特産米「う宮米」240キロを大会実行委員会に寄贈しました。

贈呈式では、深澤俊光富士宮地区本部長が「生産者が丹精込めて育て、選び抜かれた米。参加選手に知って食べてもらい、大会を応援できれば」と話し、大会名誉会長の須藤秀忠富士宮市長は「皆さまの魂がこもった素晴らしい副賞。大変ありがたい」と話しました。



須藤市長(左から4人目)に寄贈する深澤地区本部長(左から3人目)ら

高品質なタマネギ栽培へ

ほ場巡回で生育調査



御殿場地区営農課は2月2日、同地区振興作物のタマネギの生育調査のため、ほ場巡回を行い、生産者やJA静岡経済連の職員ら12人が参加しました。

同地区では1月下旬の強風によりマルチがめくれる被害が発生。経済連の鈴木秀規営農コンサルタントは生育を確認しながら「めくれたマルチが苗にかかる」と病気を誘発してしまうので、早めの撤去が重要」と呼びかけ、対策を講じました。



苗の様子を確認する生産者

援農ボランティア活躍

特産キンカン「こん太」の収穫作業



なんすん地区は1月23日から3月20日にかけて、沼津市根古屋のキンカン「こん太」の栽培ハウスで援農ボランティアによる収穫作業を行いました。

収穫作業は月曜と木曜に行い、37人のボランティアが参加。参加者は「楽しんで作業ができて、生産者の役に立てることが本当にうれしい」と話しました。

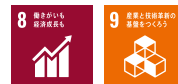
令和5年度は「沼津茶」「タマネギ」「四ツ溝柿」「西浦みかん」の収穫作業などを行う予定です。



受入農家(右)の指導を受ける援農ボランティア(左)

日本酒「富士市育ち」完成

米のうまみ、果実のような香り、上品な辛さ



富士高砂酒造と富士市農業振興推進協議会は、純米吟醸原酒「山中山屋 富士市育ち」を開発しました。

12月26日には、同社の山本晃雅副社長や小林辰明富士地区統括営農経済センター長らが小長井義正富士市長に完成を報告。原料は富士地区の仁藤大義さんの米「きぬむすめ」を全量使い、富士山の伏流水で醸造。「富士市でしか飲めない酒」として市内の酒販店や飲食店、ふるさと納税の返礼品で提供しています。



「富士市育ち」をPRする小林センター長(左)や山本副社長(右)

イチゴのチャリティー収益金を寄付

地域の社会福祉に役立てて



伊豆の国苺委員会は1月24日、イチゴのチャリティー販売の収益金5万7,440円を伊豆の国市社会福祉協議会に寄付しました。

チャリティー販売は1月14日に同市の葦山時代劇場で開催。同委員会生産者が「紅ほっぺ」や「きらび香」など計516パックを無償提供し、100円以上の寄付で1パックを進呈しました。飯田寿夫委員長は「地域貢献のために今後も続けていきたい」と話しました。



河野眞人会長(左)に寄付金を手渡す伊豆の国苺委員会役員

河津桜剪定枝を活用し地域活性化

JA職員や地元高校生らが協力して剪定作業



伊豆太陽地区は町や高校、観光協会などと連携し、名産「河津桜」の剪定枝を活用して地域活性化を図ろうと、枝物として販売するプロジェクトを展開しています。

今期も伊豆太陽営農経済センターの職員や下田高校南伊豆分校の1年生ら約15人が参加し、12月に南伊豆町の青野川両岸の4.2kmに植えられている河津桜の交差枝など不要な枝を剪定し、枝物出荷に適した長さにそろえて、計405本を切り出しました。



出荷用に枝の束ね方を生徒に説明する職員(左)

「みしまるかん」売り場づくり強化

生産者と消費者をつなぐ直売所に



ファーマーズマーケット「みしまるかん」は、生産者と消費者の交流拠点として、産地PRIに重点を置いた店舗レイアウトを進めています。JAと生産者、外部機関などが幅広く連携し、産地全体を盛り上げます。

2月16日には、箱根西麓地域のプロモーションチーム「サルベジー」の協力を得て、生産者グループ「のうみんず」の特設ブースを新たに設置。店舗づくりの実践研修も行い、各部署から20人の職員が参加しました。



売り場づくりをする「のうみんず」メンバー

学校給食に特産ミカン贈呈

食を支える農業の役割など理解促進へ



あいら伊豆地区は1月10日、熱海市と伊東市の教育委員会に小学校の給食用として地元特産ミカン「青島温州」を贈呈しました。

子どもたちに地場産への関心を深め、食を支える農業の役割などへの理解を深めてもらおうと平成21年から実施。今年は熱海市に140キロ、伊東市に270キロを贈呈しました。西野由季もあいら伊豆地区本部長は「今後は収穫体験などが開ければ」と話しました。



高橋雄幸伊東市教育長(左)に目録を手渡す西野地区本部長(中央)ら